

CRESCO 

2023年3月期 通期 連結
アナリスト向け決算説明会



2023年5月11日



1 決算のポイント



■ 組織および体制関連

- 2022年4月1日付で「代表取締役会長」「代表取締役社長執行役員」の**2代表制に移行**するとともに、『CRESCO Group Ambition 2030』の策定を機に、**コーポレートロゴを変更(創業以来初)**。
- 『CRESCO Group Ambition 2030』実現のため、「経営戦略本部」を設置するとともに、グループシナジーの更なる発揮のため、「グループ統括本部」を設置し、**グループ間での営業案件の共有を推進**。
- 適切な権限委譲による経営上の意思決定と施策実行の迅速化を目的として、**執行役員を本部長に据える組織改革**を実施。
- 機動的経営の強化およびグループガバナンス向上のため、グループ役員会議の頻度を増やし、**グループ役員間の連携を強化**。
-  グループでの人材・経営資源の有効活用による、シナジー効果の更なる発揮を目的として、2022年7月1日付で連結子会社3社(アルス、エヌシステム、ネクサス)を合併し、**「(株)クレスコ・ジェイキューブ」として再編**。
-  2023年2月、大阪・東京・名古屋の三大都市圏に拠点を持つソフトウェア開発会社**「日本ソフトウェアデザイン(株)」**の全発行済株式を取得し、連結子会社化。

■ 事業関連

- RPAやクラウド、DX領域でのビジネスラインナップを拡充し、デジタルソリューション事業を強化。

【RPA】

- 2022年 4月 UiPath社の認定リセラー「ゴールドパートナー」に認定。
- 2022年 5月 UiPathライセンス購入企業向けにe-Learningの提供を開始。
- 2023年 3月 「ダイヤモンドパートナー」に認定。

※ ダイヤモンドパートナー … ビジネスパートナーの中で最も高い技術力とサポート力を有し、UiPath製品の導入支援・販売実績の豊富なパートナーに対して認定されるもの。

【クラウド、DX領域】

- 2022年10月 ・アマゾンウェブサービス(AWS)の「AWS公共部門パートナープログラム」の「AWS公共部門ソリューションプロバイダー」に認定。
- 大容量ファイル共有サービス「インテリジェントフォルダ」のiOSアプリをリリース。
- 企業のDX人材を育成する「DX研修サービス」を開始。

IT、デジタルを駆使して
新しい価値を創造する

DX 研修サービス

◆ 企業のDX化が進む中、どのように推進したらよいか困っている...
◆ 学びではなく、実際に活かせる教育をしたい!

企業DXに必須となる人材は？

※ 今企業には、デジタル技術を用いて新しい価値を創造することが求められています。DX成功のためには、全てのビジネスパーソンがデジタルリテラシーを習得することが重要であり、DXを推進する立場の人材は、さらなる専門的なデジタル知識・能力が必要と考えられています。 CrescoのDX人材研修サービスでは、ベースから応用まで、段階に応じたDXの基礎スキルを効果的に習得できます。

CRESCO ✨



■ 事業関連

□ サイバー攻撃対策、画像認識AIや機械学習、資本・業務提携 等

- 2022年 8月 サイバー攻撃の兆候を検知・分析し、その情報をもとに専門家による対策支援を提供する「マネージドセキュリティサービス for SIEM」の販売を開始。
- 2022年 9月 画像認識AIによる画像分類結果の根拠を可視化する情報処理装置、情報処理方法、情報処理プログラムの特許を取得。
- 2022年11月 (株)フォーラムエンジニアリングのエンジニア専門人材サービス「コグナビ」のグローバル展開を目的とした、インド法人への資本出資に関する基本合意を締結。
- 2022年12月 日本航空(株)と医療AIによる画像認識技術を活用した「航空機エンジン内部検査ツール」を開発することを発表。
- 2023年 2月 J R九州ホテルズ(株)と共同で数理最適化手法を用いたホテル部屋割り最適化の実証実験を行い、部屋割り最適化ツールのプロトタイプを開発。

□ 事業の底上げとビジネス機会の創出を目的として、技術・品質・ビジネス変革に関する自己学習を奨励。

□ エバンジェリスト活動に継続して取り組み、複数名の当社社員が大学で教鞭をとる機会を創出し、人間中心経営を強かに推進。

□ 子会社「クレスコ・デジタルテクノロジーズ」が、同社のIoT機能を搭載した「ソーシャルトレシシステム」を他社と共同開発し、販売を開始。

□ 子会社「クレスコ・イー・ソリューション」が、SAP S/4HANAへの移行サービス「MOA」をリニューアル。

□ 子会社「クレスコ ベトナム」が、ベトナムのフードデリバリー市場向け最新POSシステムの販売を開始。

□ 事業効率の向上を目的に、事業所および開発拠点の移転等のオフィススペースの見直しを推進。

1 決算のポイント 1.2. 売上高・利益

【注】（ ）内の数字は各々の利益率を表します。
 【注】「純利益」は「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」です。

[単位：百万円未満切捨]

■ 売上高

既存システムの刷新やDX推進による生産性向上を目的としたIT投資需要が依然として旺盛で、売上高は順調に推移し、8.8%の増収。

■ 営業利益・利益率

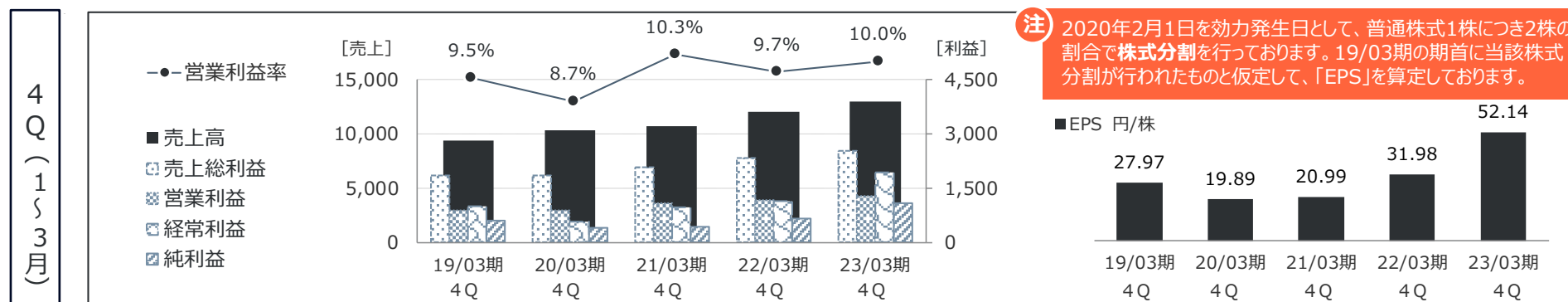
増収効果および不採算案件の極小化等により、12.1%の増益。
 利益率は10.3% (前年同期10.0%)。

■ 経常利益

米国における株安の進行より、当社が保有する金融商品に関してデリバティブ評価損(営業外費用)2億26百万円を計上し、7.4%の増益。

売上高	...	39億18百万円 ↑ (前年同期比 8.8% ↑)
営業利益	...	5億41百万円 ↑ (前年同期比 12.1% ↑)
経常利益	...	3億53百万円 ↑ (前年同期比 7.4% ↑)
純利益	...	92百万円 ↑ (前年同期比 2.8% ↑)

通 期		21/03期			22/03期			23/03期			前年 同期比		対通期 達成率		通期 業績予想	
		21/03期	22/03期	23/03期	前年 同期比	対通期 達成率	22/5/10 予想	前年 同期比								
	売上高	39,706	44,450	48,368	108.8%	101.8%	47,500	106.9%								
	売上総利益	7,199 (18.1%)	8,698 (19.6%)	9,641 (19.9%)	110.8%											
	営業利益	3,484 (8.8%)	4,457 (10.0%)	4,998 (10.3%)	112.1%	105.2%	4,750 (10.0%)	106.6%								
	経常利益	4,101 (10.3%)	4,782 (10.8%)	5,135 (10.6%)	107.4%	99.7%	5,150 (10.8%)	107.7%								
	純利益	2,634 (6.6%)	3,236 (7.3%)	3,328 (6.9%)	102.8%	99.4%	3,350 (7.1%)	103.5%								
	EPS 円/株	125.43	153.92	158.10			158.99									



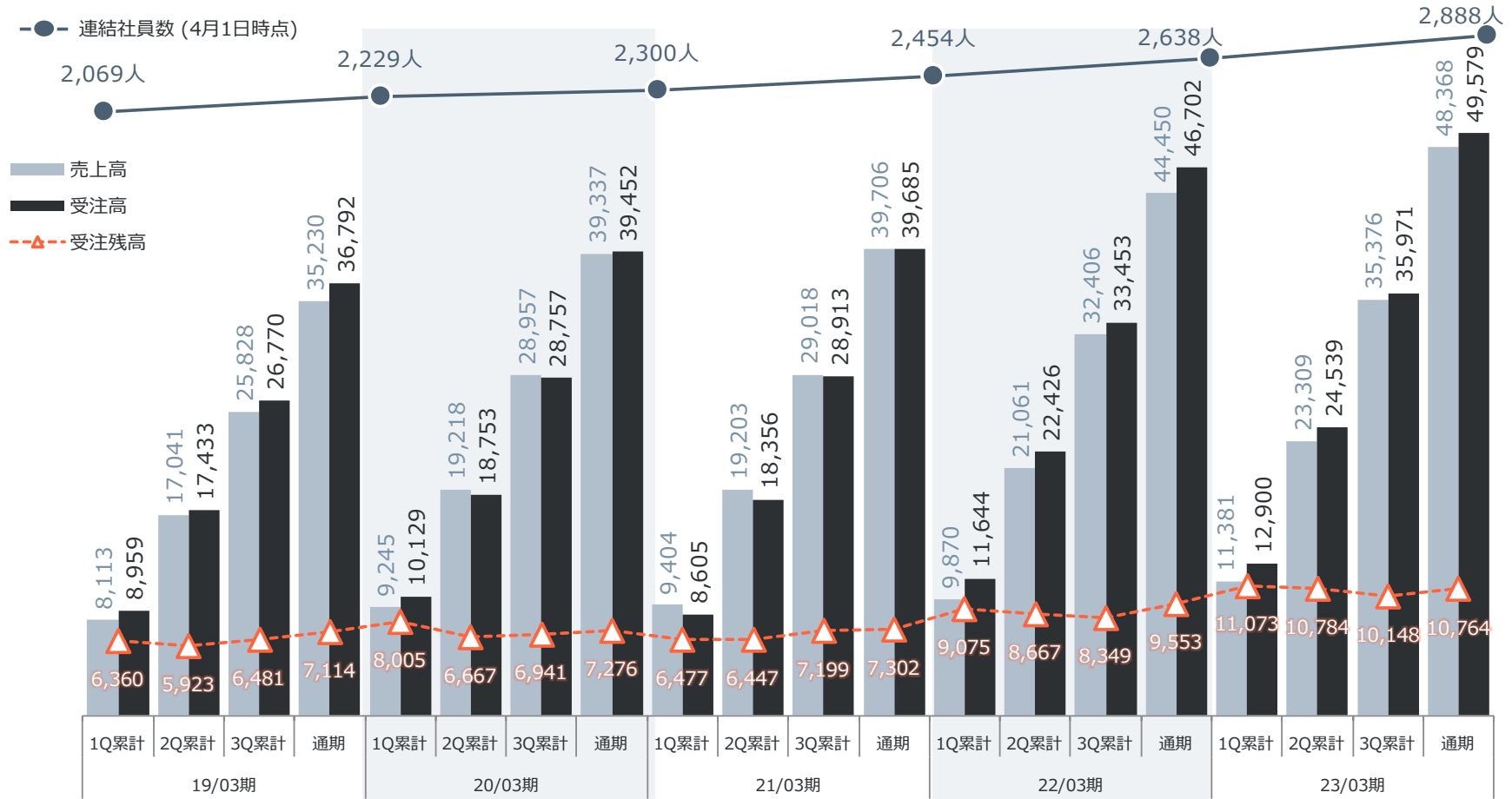


1.3. 受注高・受注残高

[単位：百万円未満切捨]

- 旺盛なIT投資需要を背景に、受注高と受注残高は順調に推移。
- 顧客企業における既存システムの刷新やDX推進によるIT投資需要が、受注を後押し。

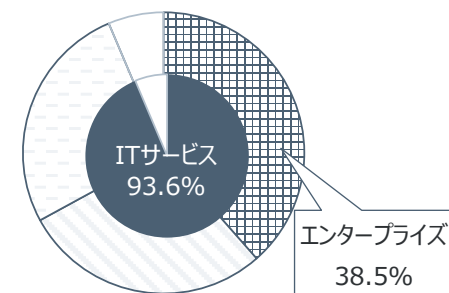
<受注高> 前年同期累計比 106.2 %
 <受注残高> 前年同期比 112.7 %



1 決算のポイント 1.4. セグメント別売上高・利益 [ITサービス事業：エンタープライズ]

セグメント		サブセグメント
IT サービス	・コンサルティング ・IT企画 ・開発・保守の総合サービス	エンタープライズ
		情報・通信、広告、流通サービス、運輸、 人材紹介・人材派遣、公共、資源・エネルギー、 建設・不動産、旅行・ホテル、医療・ヘルスケア、その他

<セグメント別の売上高比率:4Q(1~3月)>



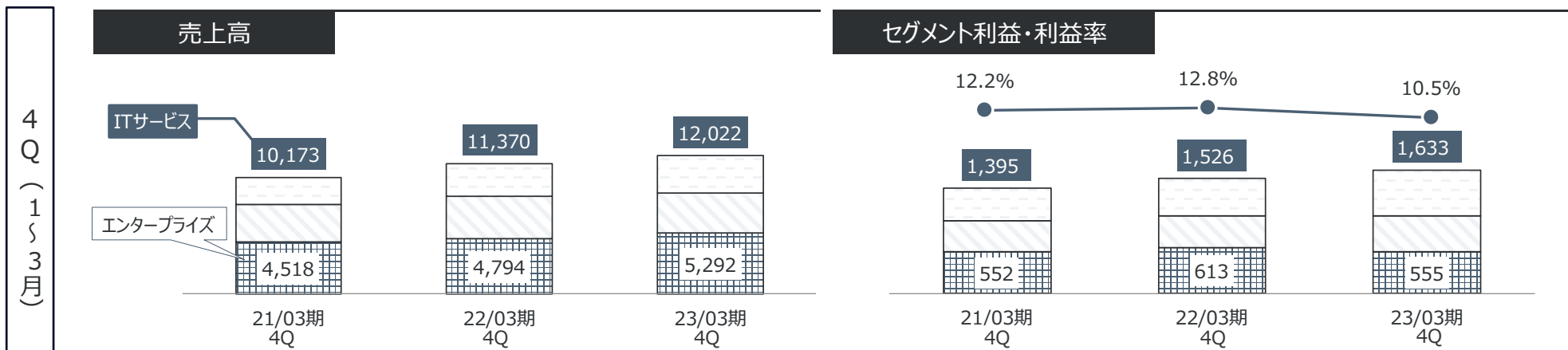
■ 売上高：188億39百万円（前年同期比 3.4% ↑）

「運輸」「人材紹介・人材派遣」分野で大型案件の収束があったものの、
「流通サービス」「建設・不動産」「情報・通信・広告」「公共」分野で売上が増加

■ セグメント利益／利益率：23億74百万円／12.6%（前年同期比 5.3% ↑）

売上高の増加と同様の理由

[単位：百万円未満切捨]

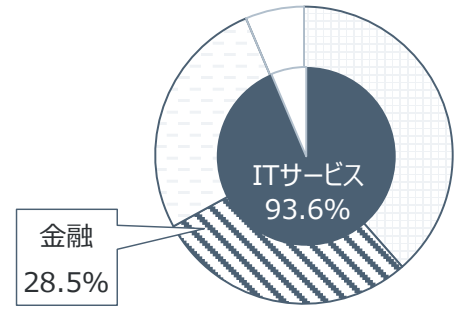


4 Q (1~3月)

1 決算のポイント 1.5. セグメント別売上高・利益 [ITサービス事業：金融]

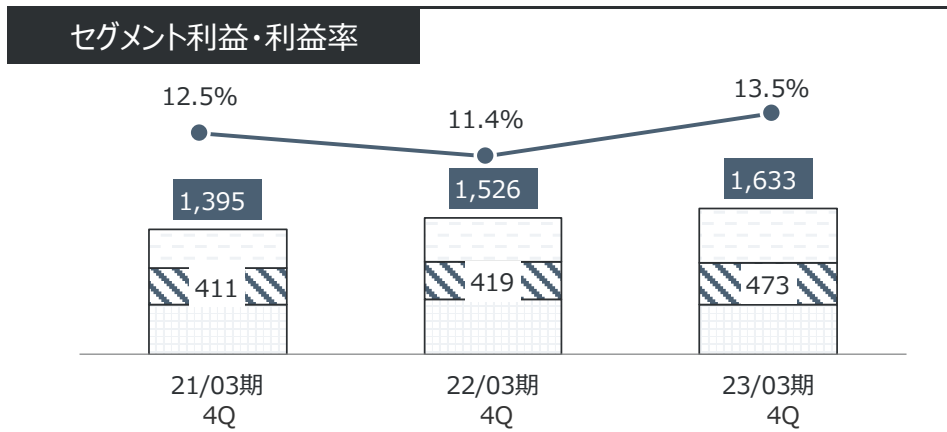
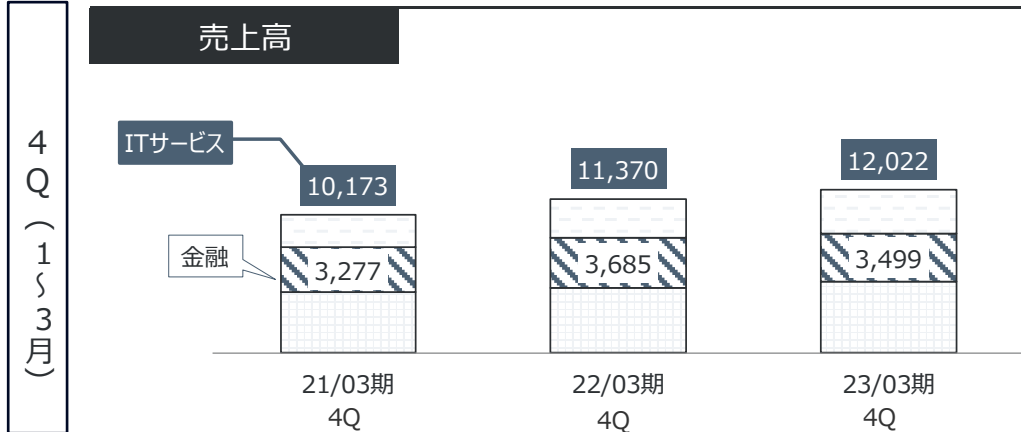
セグメント		サブセグメント	
IT サービス	・コンサルティング	金融	銀行、保険、その他
	・IT企画		
	・開発・保守の総合サービス		

<セグメント別の売上高比率:4Q(1~3月)>



- **売上高：141億15百万円**（前年同期比 3.1% ↑）
「銀行」分野で基盤構築・移行といった個別案件が増加
- **セグメント利益／利益率：18億20百万円／12.9%**（前年同期比 5.9% ↑）
売上高の増加と同様の理由

[単位：百万円未満切捨]

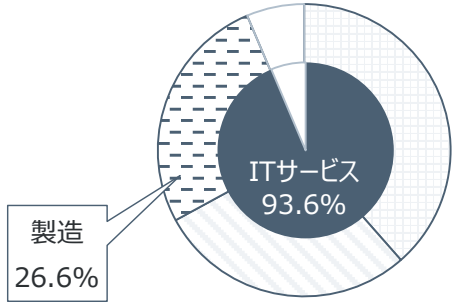


4Q (1~3月)

1 決算のポイント 1.6. セグメント別売上高・利益 [ITサービス事業：製造]

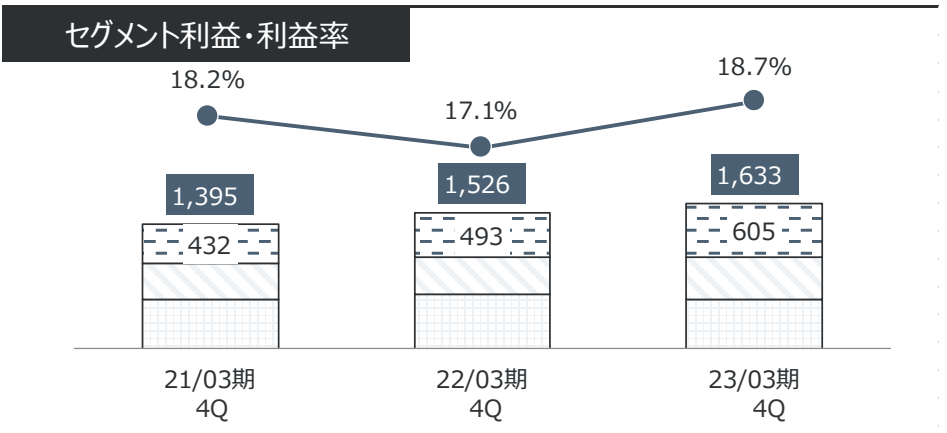
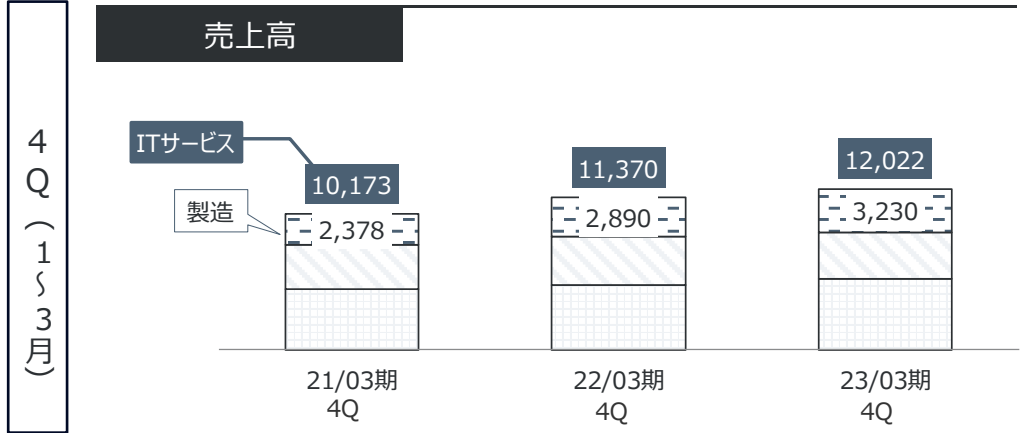
セグメント		サブセグメント	
ITサービス	<ul style="list-style-type: none"> コンサルティング IT企画 開発・保守の総合サービス 	製造	自動車、輸送機器、機械、エレクトロニクス、その他

<セグメント別の売上高比率:4Q(1~3月)>



- 売上高：126億57百万円（前年同期比 21.3% ↑）**
 「機械・エレクトロニクス」「自動車・輸送機器」分野で、クラウド・セキュリティ案件や先行投資目的の案件が増加
 ※ 特に「自動車・輸送機器」分野において新規顧客を獲得
- セグメント利益／利益率：21億59百万円／17.1%（前年同期比 23.8% ↑）**
 売上高の増加と同様の理由

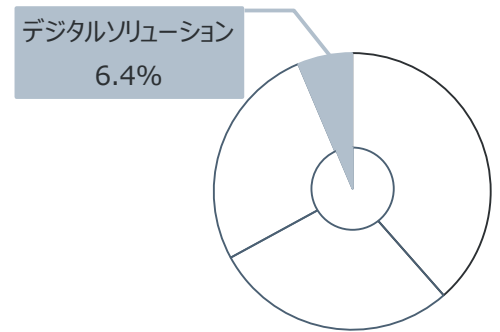
[単位：百万円未満切捨]



1.7. セグメント別売上高・利益 [デジタルソリューション事業]

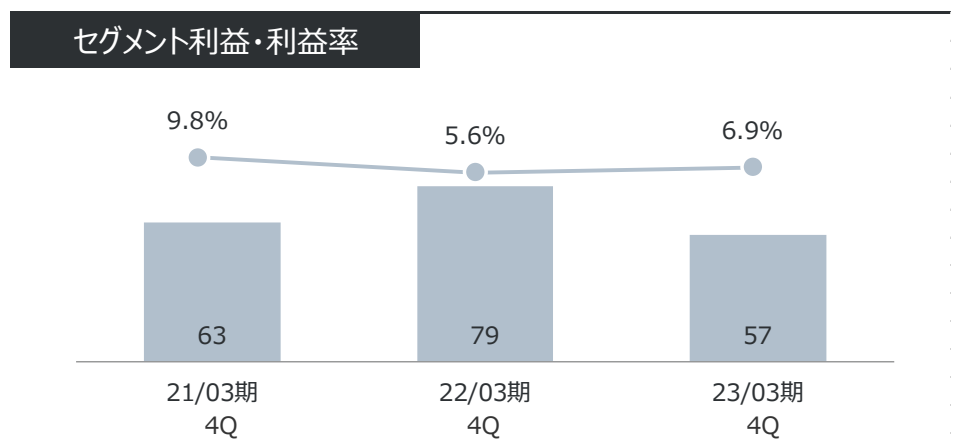
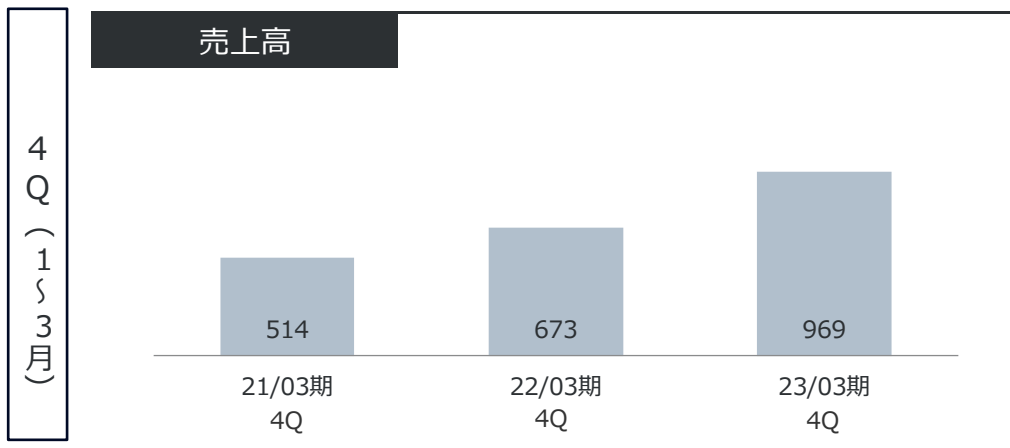
セグメント	事業
デジタルソリューション	顧客のDX実現を支援する製品・サービスからなるソリューション群 <主な製品・サービス名> Creage : クラウド関連サービス UiPath : RPA関連サービス アノテーション : AI関連サービス 教育・セミナー : AI、クラウド、RPAなど

<セグメント別の売上高比率:4Q(1~3月)>



- **売上高 : 27億55百万円 (前年同期比 30.7% ↑)**
 主クラウドサービスの「Creage」とRPAライセンスの販売が増加
- **セグメント利益／利益率 : 1億65百万円／ 6.0% (前年同期比 14.3% ↑)**
 当社デジタルソリューション担当部署で、新規サービス・ソリューションの企画、研究・検証活動を推進した結果、間接コストが増加したものの、ライセンス販売が大きく伸長

[単位 : 百万円未満切捨]





2 中期経営計画の進捗状況

2023年3月期は、『**中期経営計画2023 (2021~2023年度)**』の折り返し年度。

公表用資料から抜粋

クレスコグループは2030年に向けた経営ビジョン「CRESCO Group Ambition 2030」を掲げました。経営ビジョンを体現する行動の起点として「CRESCO Group 行動指針」を定めました。

- CRESCO Group Ambition 2030 -



【注】コーポレートロゴ変更に伴い、イメージ画像を変更しました。内容に変更はありません。

- CRESCO Group 行動指針 -





公表用資料から抜粋

経営ビジョン実現に向けて2021年から2023年までの3か年の中期経営計画「中計2023」を策定いたしました。「中計2023」ではコアビジネス推進のための3つの基本戦略にてビジネスの土台を強化しつつ、新たなビジネスの柱を生み出すための3つの重点戦略に取り組んでまいります。

重点戦略

新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化

- デジタルソリューション売上の倍増
- 新規デジタルソリューションの拡充

機動的経営の進化

- 「DX銘柄」認定の獲得
- グループ連携の強化による事業拡大

人間中心経営の深化

- 「健康経営優良法人」上位企業へ
- 次世代人財育成の充実

基本戦略

コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大

- エンタープライズ/金融/製造セグメントごとに定めた施策に基づく事業拡大

品質の強化

- 新技術/ニーズ変化に対応したマネジメントプロセスの継続的な改善と実践

技術の強化

- 新技術および重点技術(AI、クラウド、アジャイル)によるビジネス拡大

クレスコはESGを企業が認識すべき「社会から企業への期待」と捉え、取り組んでまいります
「ESGに対する当社の考えと取り組み状況」：https://www.cresco.co.jp/ir/group_business/esg.html



重点戦略 新たなビジネスの柱を生み出すために

デジタルソリューションの強化

- 特に、新ソリューション & サービスの開発および収益改善に向けた活動に注力
- ＜主な取り組み＞
 - 「マネージドセキュリティサービス For SIEM」「マネージドセキュリティサービス for EDR」の提供を開始
 - RPAに関するe-LearningおよびDX研修サービスなどの教育サービスの提供を開始
 - 「AWS公共部門パートナープログラム」「AWS公共部門ソリューションプロバイダー」の認定取得
 - UiPath社「ダイヤモンドパートナー」の認定取得
 - 当社とJR九州ホテルズ(株)の共同で、「数理最適化手法を用いたホテル部屋割り最適化」の実証実験を行い、部屋割り最適化ツールのプロトタイプを開発

機動的経営の進化

- 2022年4月、持続可能な社会に向けた行動を積極的に推進するため、クレスコグループのサステナビリティ基本方針および価値創造プロセスを制定し、公表
- クレスコグループにおける営業・案件情報の共有強化および事業ポートフォリオの多様化に向けた取り組みを実施
 - 2022年7月、グループ子会社3社(アルス、エヌシステム、ネクサス)を再編し、(株)クレスコ・ジエイクューブを設立
 - 2023年2月、日本ソフトウェアデザイン(株)を子会社化。
- 「アイデアコンテスト」などへのスポンサー活動の推進、青少年の育成支援などの社会貢献

人間中心経営の深化

- 前期に引き続き、テレワークやワークスペース整備やwithコロナに対応した働き方改革を推進するとともに、拠点規模および環境の改善を目的とした移転等を実施
- 当社の技術力を生かし、外部教育機関におけるエバンジェリスト活動を積極的に実施
- ＜主な事例＞
 - 金沢工業大学の客員准教授に就任
 - 早稲田大学「スマートエスイーDXコース」の講師を担当
 - 琉球大学機械工学コースの講義「キャリアデザイン入門」の講師を担当
- 2023年3月、特に優良な健康経営を実践する法人として「健康経営優良法人2023」に認定
- 2023年3月、社員の健康増進のためにスポーツに積極的に取り組む企業として、スポーツ庁から「スポーツエールカンパニー」に認定



基本戦略

コアビジネス領域をより強固なものに

ITサービスの拡大

- エンタープライズ、金融、製造の各セグメント領域における営業力の強化のため、営業体制を変更
- 自動車領域の事業が拡大し、製造セグメントが伸長
- 公共事業への参画が進み、既存領域の継続拡大だけでなく、新領域も開拓
- 不足する国内開発人員への対策で、ニアショア・オフショア活用を引き続き推進
- ソリューションングプロセスの活用を進め、新規案件を獲得

品質の強化

- 品質スローガン「お客様に安心・感動の品質を」を実現するため、品質管理本部による品質マネジメントシステムの構築・改善、プロジェクト状況の監視、品質プロセス実施状況の監査を実施
- 全開発部門においてISMSを取得 ※ 2023年度は全社での獲得を目指す
- プロジェクトマネジメント学会において当社のマネジメント活動に関する報告を行うなど、品質活動に関する価値を向上
- 一般論の「品質」と当社での「品質」を全社で共有し、品質強化を目的とした全員参加型の「品質に関する研修(eラーニング)」を実施

技術の強化

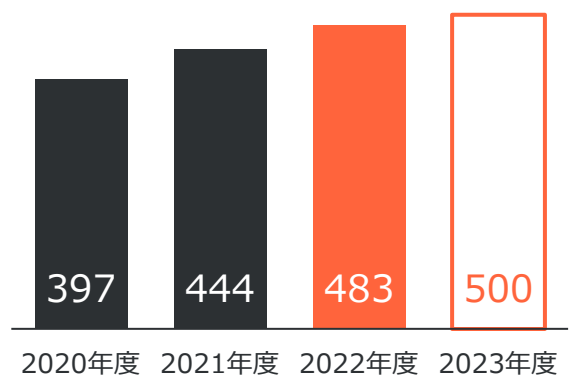
- 2022年9月、当社が得意とする画像認識AIや機械学習の分野において、画像認識AIによる画像分類結果の根拠を可視化する情報処理装置、情報処理方法および情報処理プログラムの特許を取得
- 2022年12月、日本航空(株)と医療AIによる画像認識技術を活用した「航空機エンジン内部検査ツール」を開発することを発表
- 5年連続で「IBM Champion」、3年連続で「UiPath Japan MVP」に認定
- 企業のDX人材育成を支援する、外部向け「DX研修サービス」の提供を拡充
- 社員のDXリテラシーを高めるため、社員教育カリキュラムの拡充を推進

2 中期経営計画の進捗状況  2.5. 進捗状況：経営目標

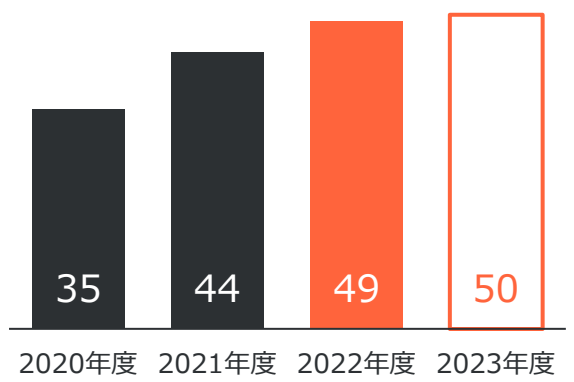
公表用資料から抜粋

経営目標	2020年度実績	2023年度目標値
連結売上高	397億円	> 500億円
連結営業利益額	35億円	> 50億円
ROE	14.8%	> 15%以上

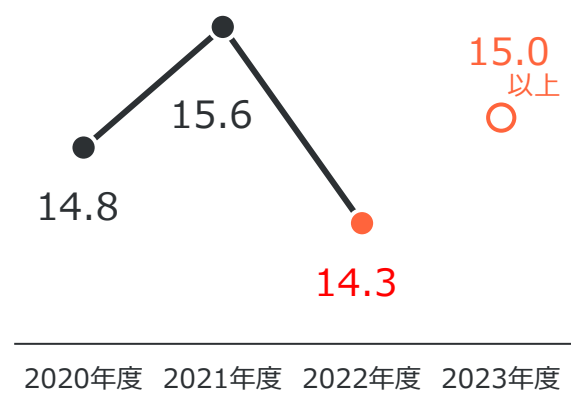
売上高 [単位：億円]



営業利益 [単位：億円]



ROE [単位：%]





3 2024年3月期の見通し



- ロシア・ウクライナ紛争の長期化による景気の下振れが懸念されるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は収束傾向にあり、企業におけるDX推進が更なる高まりを見せるものと考えられることから、IT投資は伸長し、**当社企業グループの受注は増加していくものと見込む。**
- 中長期的な企業価値の向上を目的として、「DX人材育成プログラム」や「次世代人材育成プログラム」など、様々な教育研修プログラムを設けて投資を行う予定。また、従業員確保を目的とした給与水準の引き上げや過去最大規模での新卒社員の採用により、**人件費や教育費等の増加を見込む。**
- 今後の状況や事業動向等を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示。

[単位：百万円未満切捨]

2 Q 累 計	23/03期						24/03期	
	22/5/10 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	23/5/10 予想	前年 同期比	
	売上高	22,840	108.4%	23,309	110.7%	102.1%	24,900	106.8%
売上総利益			4,531 (19.4%)	111.3%				
営業利益	2,090 (9.2%)	103.6%	2,245 (9.6%)	111.3%	107.4%	2,080 (8.4%)	92.6%	
経常利益	2,340 (10.2%)	105.2%	2,116 (9.1%)	95.2%	90.4%	2,170 (8.7%)	102.5%	
純利益	1,420 (6.2%)	88.4%	1,467 (6.3%)	91.4%	103.4%	1,418 (5.7%)	96.6%	
EPS 円/株	67.49		69.76			67.30		

通 期	23/03期						24/03期	
	22/5/10 予想	前年 同期比	実績	前年 同期比	達成率	23/5/10 予想	前年 同期比	
	売上高	47,500	106.9%	48,368	108.8%	101.8%	52,500	108.5%
売上総利益			9,641 (19.9%)	110.8%				
営業利益	4,750 (10.0%)	106.6%	4,998 (10.3%)	112.1%	105.2%	5,250 (10.0%)	105.0%	
経常利益	5,150 (10.8%)	107.7%	5,135 (10.6%)	107.4%	99.7%	5,370 (10.2%)	104.6%	
純利益	3,350 (7.1%)	103.5%	3,328 (6.9%)	102.8%	99.4%	3,582 (6.8%)	107.6%	
EPS 円/株	158.99		158.10			170.00		

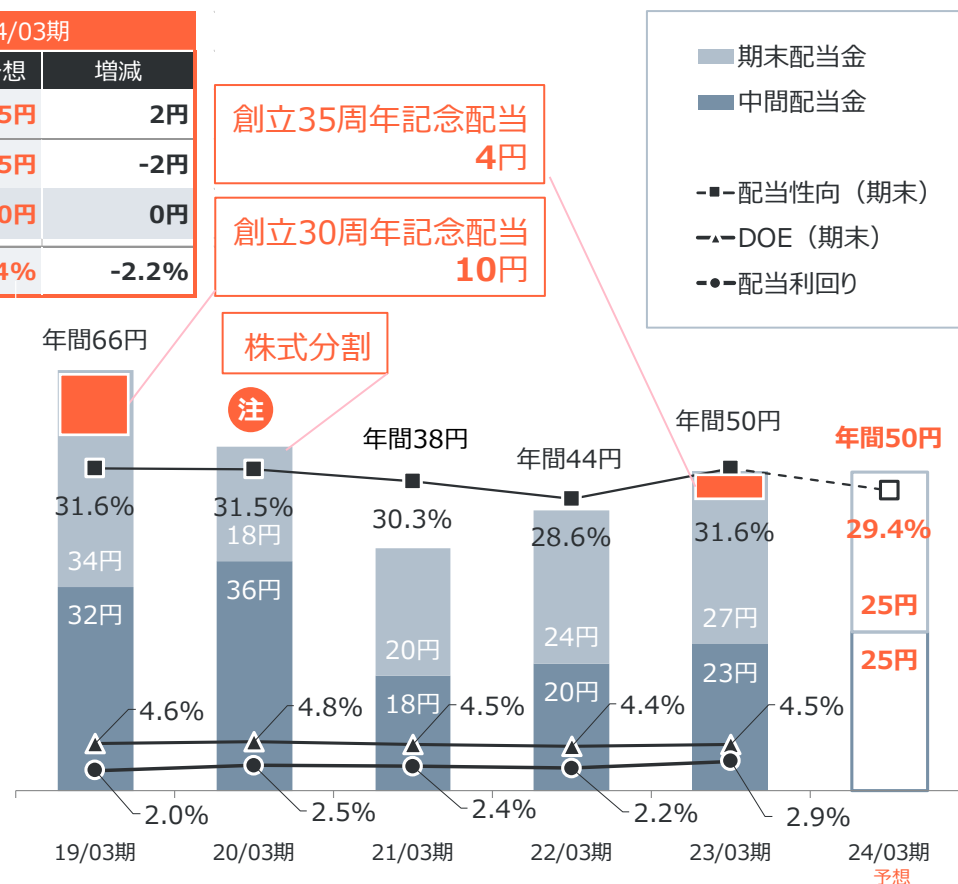


- 株主還元方針に則った配当を継続。
- 普通配当50円 [中間25円、期末25円]。(ご参考：前年度50円 [普通配当46円、記念配当4円])

	21/03期	22/03期	23/03期	24/03期	
	実績	実績	実績	23/5/10 予想	増減
中間	18円	20円	23円	25円	2円
期末	20円	24円	27円	25円	-2円
年間	38円	44円	50円	50円	0円
配当性向	30.3%	28.6%	31.6%	29.4%	-2.2%
配当利回り	2.4%	2.2%	2.9%		
DOE	4.5%	4.4%	4.5%		
配当金の総額	798百万円	925百万円	1053百万円		

[配当金の総額：百万円未満切捨]

株主還元方針	■
	当社は株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持することを基本方針としております。
	特段の株主優待は行っておりません。
	配当に関しましては、原則、 連結経常利益 をもとに、特別損益を零とした場合に算出される 親会社に帰属する当期純利益 の30%相当を目的に継続的に実現することを目指してまいります。



注 2020年2月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

- ・ 19/03期中間～20/3期中間は分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- ・ 20/03期の合計は、株式分割の実施により単純計算ができないため記載しておりません。



5月10日(水) 適時開示



「自己株式取得に係る事項の決定及び自己株式の消却に関するお知らせ」

■ 利益還元のかえ

- 基本方針は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置づけ、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を維持すること。
- 株価動向や経営に与える影響を考慮しつつ、自己株式の取得を実行することも重要な株主還元政策の選択肢の一つ。

■ 自己株式の取得および消却を行う理由

- 基本方針に基づき自己株式の取得を行う。
- 取得・保有する自己株式を消却し、資本効率の向上を図る。

■ 概要

① 自己株式の取得	
株式の種類	当社普通株式
株式の総数	500,000株（上限） 発行済株式数（自己株式を除く）に対する割合 2.4%
取得額の総額	1,000,000,000円（上限）
取得期間	2023年5月11日～2023年11月30日
取得方法	東京証券取引所における市場買付け

② 自己株式の消却	
株式の種類	当社普通株式
株式の数	1,000,000株
消却予定日	自己株式の取得完了後、改めてお知らせします。

<参考> 2023年3月31日時点の自己株式の保有状況

- 発行済株式数（自己株式を除く）： 21,070,066株
- 自己株式数： 1,929,934株



ご参考

ご参考  1) 連結子会社の変遷

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期				2023年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
クレスコ・イー・ソリューション	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコワイヤレス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アイオス 【※1】【※5】【※7】【※10】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ九州 【※8】	●	●	●	●	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
クレスコ北陸	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
シースリー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
クレスコ・デジタルテクノロジーズ 【※13】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
メクゼス 【※3】【※4】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エヌシステム 【※14】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/
ネクサス 【※2】【※14】	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/
アルス 【※6】【※14】	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	/	/	/
クレスコ・ジェイキューブ 【※14】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●
クレスコベトナム 【※9】	/	/	/	/	/	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エニシアス 【※11】	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
OEC 【※12】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●	●	●	●	●	●	●	●
日本ソフトウェアデザイン 【※15】	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	●
子会社総数	10	10	11	11	10	11	11	11	12	12	12	12	12	13	13	13	13	11	11	12

【※1】 2017年10月2日付で「アイオス」は「(株)アプリケーションズ」を子会社化 (当社の孫会社)

【※2】 2018年1月12日付で「(株)ネクサス」を子会社化

【※3】 2018年3月12日付で「メディア・マジック」は「メクゼス」に商号変更

【※4】 2018年4月1日付で「メクゼス」は「アイオス 関西営業所」を統合

【※5】 2018年4月1日付で「アイオス」は「アプリケーションズ」を統合

【※6】 2018年10月1日付で「アルス(株)」を子会社化

【※7】 2018年11月1日付で「アイオス」は「イーテクノ(株)」を子会社化 (当社の孫会社)

【※8】 2019年4月1日付で「クレスコ九州」を統合

【※9】 2019年9月17日付で「CRESCO VIETNAM CO., LTD.(クレスコベトナム)」を設立
(営業開始は2019年10月1日から)

【※10】 2019年10月1日付で「アイオス」は「イーテクノ」を統合

【※11】 2020年4月1日付で「(株)エニシアス」を子会社化

【※12】 2021年7月1日付で「(株)OEC」を子会社化

【※13】 2022年5月1日付で「クリエイティブジャパン」は「クレスコ・デジタルテクノロジーズ」に社名変更

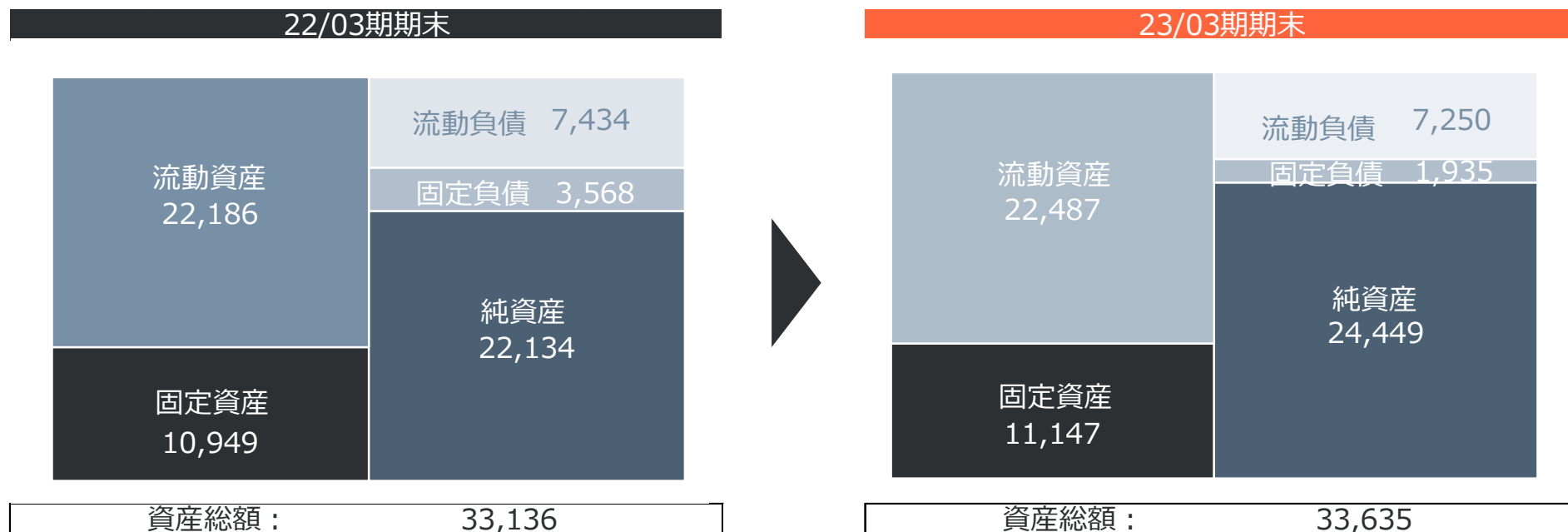
【※14】 2022年7月1日付で「アルス」は「エヌシステム」「ネクサス」を統合

【※15】 2023年2月1日付で「日本ソフトウェアデザイン(株)」を子会社化

ご参考 ※ 2) 資産・負債の状況

[単位：百万円未満切捨]

- 資産総額は、前連結会計年度末に比べて**4億98百万円増加**し、336億35百万円



- 流動資産 ↑ 前連結会計年度末比 3億円増加
 増加：電子記録債権…7億19百万円、売掛金…5億12百万円、未収入金…3億94百万円、契約資産…1億16百万円
 減少：現金および預金…8億19百万円、受取手形…4億34百万円、有価証券…1億96百万円
- 固定資産 ↑ 前連結会計年度末比 1億98百万円増加
 増加：繰延税金資産…2億40百万円、建物…2億15百万円、敷金および保証金…64百万円
 減少：投資有価証券…2億56百万円、ソフトウェア…94百万円、保険積立金…67百万円
- 流動負債 ↓ 前連結会計年度末比 1億83百万円減少
 増加：買掛金…88百万円、受注損失引当金…45百万円
 減少：1年内返済予定の長期借入金…1億54百万円、未払金…88百万円、資産除去債務…50百万円
- 固定負債 ↓ 前連結会計年度末比 16億33百万円減少
 増加：資産除去債務…58百万円、社債…50百万円
 減少：退職給付に係る負債…12億57百万円、長期借入金…4億83百万円
- 純資産 ↑ 前連結会計年度末比 23億15百万円増加
 増加：利益剰余金…23億39百万円、退職給付に係る調整累計額…50百万円
 減少：その他有価証券評価差額金…1億36百万円

ご参考 ※ 3) キャッシュフローの状況

[単位：百万円未満切捨]

- 現金および現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べて**8億22百万円減少**し、109億15百万円

		21/03期		22/03期		23/03期	
		2Q末	期末	2Q末	期末	2Q末	期末
キャッシュ・フロー	営業活動	1,300	3,155	774	3,222	1,015	1,679
	投資活動	▲ 181	▲ 47	▲ 1,027	▲ 1,155	▲ 431	▲ 874
	財務活動	▲ 755	▲ 1,479	▲ 516	▲ 1,352	▲ 894	▲ 1,631
フリー・キャッシュ・フロー		1,118	3,108	▲ 252	2,066	583	804
キャッシュ・フロー増減		363	1,630	▲ 768	722	▲ 307	▲ 822
現金および現金同等物の期末残高		9,748	11,015	10,247	11,737	11,430	10,915

■ 営業CF 16億79百万円の収入

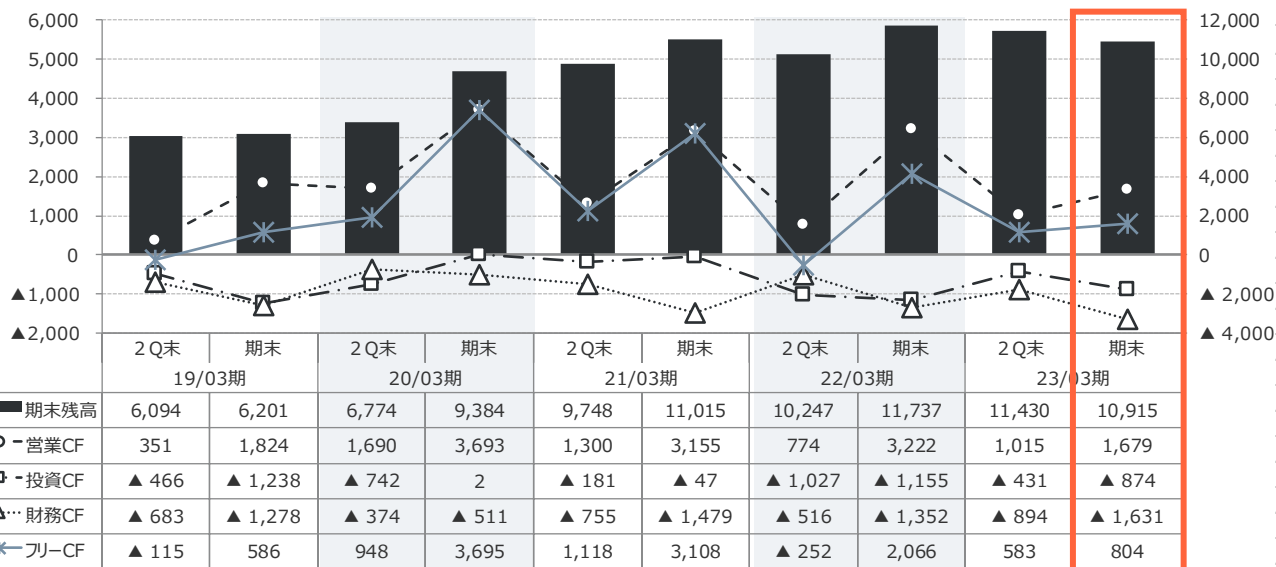
法人税等の支払額 …	16億93百万円
退職給付に係る負債の減少額 …	13億24百万円
税金等調整前当期純利益 …	49億44百万円

■ 投資CF 8億74百万円の支出

投資有価証券の償還による収入 …	17億5百万円
投資有価証券の取得による支出 …	20億43百万円
有形固定資産の取得による支出 …	2億94百万円
無形固定資産の取得による支出 …	1億3百万円

■ 財務CF 16億31百万円の支出

配当金の支払い額 …	9億88百万円
長期借入金の返済による支出 …	6億39百万円



ご参考 4) 経営ビジョンと中期経営計画の詳細URL



【注】 コーポレートロゴ変更に伴い、イメージ画像を変更しました。 内容に変更はありません。



「経営ビジョン」の詳細

<https://www.cresco.co.jp/ja/corpinfo/vision.html>



「中期経営計画2023」の詳細

<https://www.cresco.co.jp/ja/ir/operation/plan.html>



免責事項等

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値や将来展望は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業況や業績結果と大きく乖離するなど、本資料の内容と異なる可能性もございます。予めご了承ください。

【 IRのお問合せ】
広報部 Mail : ir@cresco.co.jp
TEL : 03-5769-8058